

## インターバンクの声（2015年2月9日）

非農業部門雇用者数なのか、平均時給の伸びなのか、それとも昨年11月と12月分の結果がそれぞれ大幅修正されたからなのか。いずれにしろ金曜日に発表された1月の米雇用統計が事前予想を上回る好結果を示したことで、米経済の回復が確認されたとして対円を中心にドルが大きく買われた。失業率が0.1ポイント悪化しているが、これも景気の回復から職探しを改めて始めた人が増えたことが背景にあるとしてポジティブに解釈されるくらいだった。ドル円はドルの上値の壁とされた119円を超えて来たが、気になったのがギリシャの債務問題への不安感があったとはいえ、株式相場がニューヨーク市場の後半下落に転じていたことだ。米連邦準備理事会（FRB）の利上げの時期が再び近づく見通しに転じたことは確かに直接的には株式市場にとっては重しにはなるが、本当に景気の堅調さに自信があれば利上げを乗り越える買いが出て来てもおかしくない。今週の幾つかの主要な米経済指標の結果と株価動向がさらなるドル買いへの試金石になりそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。